

東京工業大学相澤研究室博士課程2年の伊藤智哉です。

実験を行うために毎年、数ヶ月の間、お世話になっています。

その経験から、“森研究室ならではの”という点をいくつか簡単に紹介したいと思います。

まず森研究室では、イオンチャネル研究や神経系の研究、免疫系の研究など様々な分野の研究を、細胞内の分子メカニズムからマウスを使った個体レベルの解析まで幅広い解析を行っています。そのため、学生同士の会話を聞いていると、研究の話題は様々な分野に渡り、1つの研究室内とは思えないくらいの多彩な実験手法や解析の話題が飛び交っています。

また研究室内では、まだ実験に慣れていない学生に上級生や先生方が実験を指導している姿をよく目にします。研究室の“ノウハウ”を親身になって指導することにより、研究に対する高い意識が学生に生まれ、レベルの高い研究が維持できるのだと思います。

さらに、研究室内ではラボメンバー同士の深い信頼関係を感じています。研究室内で何か問題が起きるとみんなでそれを解決する姿や、実験でつまづいている学生がいるとみんなでおアドバイスをしている姿を見て、ラボメンバーがお互いに信頼できている証拠だと感じています。

このように、森研究室では他の研究室にない魅力的な面がたくさんあると感じています。私はこれまで、実験面だけでなくたくさんのお話を学ばせてもらっています。最初は他の研究室で実験を行うことに不安もありましたが、先生方や先輩方からたくさんのご厚意を頂き、様々な実験を行ってきました。私のような共同研究の学生にも、親身に対応して下さる研究室の“暖かさ”も“森研究室ならではの”の点だと思います。